

農試第243-1号  
平成25年3月8日

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長  
(公印省略)

農作物病虫害発生予察予報の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

連絡先	福井県農業試験場	病虫害防除室
Tel	0776-54-5100	
FAX	0776-54-6403	
E-mail	byogaichu-boujo@fklab.fukui.fukui.jp	

平成25年農作物病虫害発生予察予報第1号

3月～4月の気象概況

3月の気温・降水量は平年並み。4月の気温・降水量は平年並みと予想されています。

[水稲関係]

病虫害名 ばか苗病

1. 予報内容

- 発生時期：発病最盛期は4月下旬
- 被害程度：少発
- 発生量：育苗期の発生量は前年並み

2. 防除対策および防除上の注意点

- (1) 種子は無発病圃場のものを選定する。
- (2) 種子消毒の前に比重選を行う。
- (3) 消毒済み種子でない場合は浸種前に種子消毒を必ず行う。
- (4) 薬剤による消毒後は十分風乾し、籾に薬剤を固着させる。
- (5) 薬剤による消毒種子は浸種開始から3日間は換水をしない。
- (6) 薬剤の残液は、河川や池などに流さず、適正に処理する。
- (7) 温湯処理による種子消毒は処理温度と時間を厳守する。

病虫害名 苗いもち

1. 予報内容

- 発生時期：初発は4月下旬
- 発生程度：少発
- 発生量：育苗期の発生量は、平年より少なく、前年並み。

2. 防除対策および防除上の注意すべき事項

- (1) 比重選、健全種子の使用、種子消毒を徹底する。
- (2) 種籾が露出していると発生しやすいので、厚まきはさけ、覆土を十分に行う。
- (3) 育苗施設内の換気に気を付け、過湿にしないようする。

- (4) 育苗施設内や周辺に放置してある稲わらや籾がらは伝染源となるので、除去する。
- (5) 発病の恐れがある場合や発生を確認した場合には液剤、水和剤で防除する。育苗期の薬剤防除は苗いもちだけでなく、本田の葉いもちを抑制する効果がある。
- (6) 温湯消毒を実施する場合は、必ず乾もみを使い、60℃10分または58℃15分の処理温度、時間等を適正に行う。また、発芽率の低下を防ぐために、消毒後は速やかに冷却する。
- (7) 育苗後、野菜等を栽培する場合は、水稻育苗箱施薬しない。

病害虫名 各種苗立枯病（糸状菌）

1. 予報内容

- 発生時期：初発は4月中旬
- 発生程度：少発
- 発生量：平年より少なく、前年並み。

2. 防除対策および防除上の注意すべき事項

- (1) 床土のpHは4.5～5.1程度とする。
- (2) 前年発生を認めた育苗箱や古い育苗箱は洗浄消毒する。床土消毒は病原菌によって防除薬剤が異なるので注意する。
- (3) 極端な早播き、厚播きを避け、育苗ハウスの温湿度管理（夜間5℃以下、昼間25℃以上にならないように管理し、多湿を避ける）に留意し健苗育成に努める。

病害虫名 褐条病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病

1. 予報内容

- 発生時期：初発は4月下旬
- 発生程度：少発、局中発
- 発生量：平年より少なく、前年並み。

2. 防除対策および防除上の注意すべき事項

- (1) 比重選や健全種子の使用、種子消毒を徹底する。
- (2) 床土のpHは4.5～5.1程度とする。
- (3) 催芽、出芽が高温(30℃以上)にならないようにする。
- (4) 極端な早播き、厚播きを避け、育苗ハウスの温湿度管理（夜間5℃以下、昼間25℃以上にならないように管理し、多湿を避ける）に留意し健苗育成に努める。また、灌水に湖沼や河川の水は使用しない。
- (5) ハトムネ催芽器を使用すると褐条病の発生が多くなるので注意する。
- (6) 温湯消毒は褐条病への効果が不十分であるので注意する。
- (7) 発病後の防除薬剤はないので注意する。

[野菜関係]

野菜名	病害虫名	予 報 内 容			防 除 対 策
		発生時期	被害程度	発 生 量	
全 般	根腐病 苗立枯病		少 発 (局中発)	平年：並み 前年：並み	1)対象作物、病原菌によって農薬が異なるので注意する。

[果樹関係]

果樹名	病害虫名	予 報 内 容			防 除 対 策
		発生時期	被害程度	発 生 量	
ウメ	灰色かび病	果実初発 4月上旬	少発 (局中発)	平年：やや少 前年：並み	1)防除体系に基づき、開花終了直後から予防防除を行う。 2)開花終期から肥大初期の天候がぐずつく場合は、特に発生に注意する。
	かいよう病	果実初発 4月中旬	少発 (局中発)	平年：多い 前年：並み	1)果実直径10～15mmの時期に予防防除を行う。 2)果実肥大期に強風雨や降雹があった場合は、2日以内に抗生物質剤で防除を行う。 3)耕種的防除として防風対策を必ず実施する。
	黒星病	果実初発 5月中旬	少発 (局中発)	平年：やや多い 前年：並み	1)防除体系に基づき、展葉初期から予防防除を行う。 2)多発園では4月中旬以降散布間隔を10日以内にする。
	アブラムシ類	加害開始 4月中旬	少発 (局中発)	平年：並み 前年：並み	1)展葉初期から生育期に防除する。